

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201275		
法人名	ジャパンメディカル株式会社		
事業所名	白水すみれホーム		
所在地	神戸市西和井取13-8 (電話) 078-976-1818		
評価機関名	福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年8月4日	評価確定日	2008年10月16日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤13人, 非常勤 5 人, 常勤換算7.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建て	1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	588 円
	夕食	588 円	おやつ	84 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	10	要介護2	6		
要介護3	7	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83.2 歳	最低	59 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名谷病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・経験豊富な管理者と職員が協力し、ホームの理念である尊重、安心、笑顔、温もり、地域交流の実践に努めている。系列機関との連携で利用者の要望に応じ必要なサービスを提供できる体制になっている。自治会もなく隣近所との付き合いは少ないが、住民に働きかけたり、民生委員の協力をえて、事業所が地域から孤立することなく地域活動や地域住民と関わりを持つ機会を増やすよう心がけている。昨年の評価の改善課題にもなっていたが、職員が利用者と一緒に食事をする問題も部分的に解決努力がされつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・苦情窓口の案内・職員が利用者と一緒に食事する・災害時の地域の協力体制等が前回評価の主な改善課題。再確認のため文書及び家族会で知らせた。職員は食事は同じものを食べられないが部分的に一緒に食事を楽しむ機会をつくらうとしている。利用者も交えて避難訓練している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・リーダーが一人で自己評価した。評価を通して職員の働きぶりや、気持ち伝わってきた。日常業務について取り組めてないことに気付いた。第三者評価結果を家族等に報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) ・2ヶ月に1回の会議でホームの近況や防災等のテーマを決めて話し合いをしている。自治会がないので会議に出席する民生委員と近隣の住民が地域との橋渡しをしてくれ、関係作りができつつある。また家族の理解も深まった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ・家族等への報告は、電話や便りで行っている。家族等からの意見、不満、苦情は上がってこない。家族会で出してもらおうよう声かけしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ・ホームの行事へ地域の人が参加したり地域の行事に招待してもらっているが、顔なじみの関係にはなれていない。散歩の途中で職員が挨拶したり、運営推進会議参加メンバーの協力等でホームが地域に受け入れられ、人々との関わりが持てるよう努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設当初から利用者、職員は地域で暮らす家族の一員であるという、地域に根ざしたホーム作りを目指した理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・健康管理等、個別対応を通してケアの場面で、利用者個々の状態に合わせて、全員が家族であるという理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・新興住宅地で自治会、老人会もない。ホームの行事に招待したり、地域の行事にも声かけを頼んでいるが、努力の余地はあろう。		・地域事情もありむずかしいが、地域密着には長期的に取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・リーダーが自己評価をした。評価を通して、地域との関わりや職員の気持ち、さらなる利用者へのきめ細やかなケアの必要性に気付いた。評価結果は家族等へ報告し、職員のスキルアップにも努めている。		・評価が有効に活用されるよう次回からは全職員で自己評価をされるよう望みたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・民生委員、地域代表、利用者、家族代表等で定期的開催している。回を重ねて、グループホームの理解が深まり、民生委員が地域住民との橋渡しをしてくれたり、家族から協力の申し出がでてきた。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・グループホームの連絡会をとおして市と連携を図り、困ったときに相談できる関係作りができています。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・定期的に利用者の暮らしぶりや健康状態を協力医やケアマネジャーのコメントを入れて知らせている。金銭管理は請求書と一緒に毎月報告している。職員の移動はホームの掲示板の顔写真でわかるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・年1、2回家族会を開き利用者の様子や外部評価について報告している。苦情や不満は出てこない。</p>		<p>・家族会を家族だけで話せる時間を作る等有効に活用し、相談、苦情等が出しやすい機会作りができないか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の交代のダメージを防ぐように平常からどの職員でも関わられる体制にしている。管理者は職員に気軽に相談するように話し無理のない勤務体制が取れるよう工夫する等職員の定着に努めている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修は情報を提供し、希望者は事業所費用で参加できる。研修後報告は回覧している。日常業務はベテランが新人を指導している。今年度の内部研修の頻度は少ない。</p>		<p>・外部研修は参加しやすい配慮がなされているが、事業所独自の内部研修も職員の質の向上には欠かせないもので、開催が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・西区グループホーム連絡会に所属している。法人内の5グループホームの管理者は年1～2回交流している。職員同士の交流は少ない。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・利用前に自宅を訪問し本人、家族の生活ぶりを把握し、本人もホーム見学し馴染みながらの利用を心がけている。入居直後も不穏になった時は家族に連絡し、本人と電話で話してもらったり訪問してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者というより家族の一員として一緒に過ごしている。毎日背広を着て生活される等その人らしく生きている方々から学ぶことが多い。一緒に外出したり、洗濯物をたたむ・おしぼりを用意するなど職員と共に作業に取り組んで頂いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・生活歴や本人、家族に聞いて、思いや意向の把握に努めている。言葉に出しづらい思いは表情でくみ取っている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・本人や家族の希望を直接または電話で聞き内科医の意見も反映してフロアー会議で職員と話し合って計画を立てる。ボランティアの社会資源としての活用も計画に盛り込んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期見直しは6ヶ月毎、変化が生じた場合は随時見直しをしている。職員はカルテに利用者のちょっとした変化も記録し、申し送り等で気づきを共有して見直しの参考になっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・医療連携体制を活かして、医師との連携が24時間可能である。系列機関として、病院、老健、特養、有料老人ホーム、訪問看護などがあり、要望に応じて臨機応変に必要なサービスを提供できる体制である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・提携医療機関が緊急時も即時に対応してくれる。また、本人や家族が希望する馴染みの医療機関にも受診できるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時に、重度化・看取り介護の指針を家族に説明し、同意書を取り交わしている。看取りの事例も多く、家族、主治医、訪問看護師とともに、最後まで利用者の意向に添って介護をしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者の個性を理解し、誇りを傷つけるような言葉遣いや態度をしないように、職員全員が心掛け注意し合っている。個人情報の取り扱いは慎重にし、守秘義務に関し職員は念書を書き徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・その日をどのように過ごしたいかなどを聞き取り、一人ひとりの体調に配慮しながら希望に合わせて支援している。思いを表出できない人には表情や動きで察するようにし、利用者の笑顔が増える支援に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理、配膳、片付けなどの一連の作業を一緒に行っているが、利用者の食事中は、職員はサポートに徹し、休憩時間に各自弁当を食べている。しかし、誕生会などの行事食やおやつなどは一緒に調理し、職員も同じテーブルで同じものを楽しく食べている。今後食事を一緒に楽しむ機会を増やしていきたいと考えている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は基本的に週3回だが、希望により毎日シャワー浴の人もいる。夫婦で入浴や友だち2人で温泉気分の入浴希望にも、柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者が一人ひとりに合った楽しみややりたい役割を見つけられるように支援している。季節行事や遠足の遠足なども毎年計画的に実施している。行事に参加できなかった利用者には、別にプログラムを用意するなど工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の気分、状態や希望に応じて、日常的に散歩、買物、ドライブなどの支援をしている。外出を渋る利用者には声掛けして、家庭菜園の世話を一緒に行うなど、外気に触れる機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中の鍵を掛けないケアについて職員は理解しているが、入居間もない利用者が不穏であり、そのフロアの入口のみを施錠している。少し落ち着かれたので開錠を予定している。夜間は不審者侵入防止のため玄関を施錠している。		・利用者の安全を確保しながら、日中鍵を掛けないですむ支援の工夫を望みたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回の消防・避難訓練を行っている。各フロアに防災マニュアルを設え、災害時に機敏な対応ができるように研修も実施している。近隣住民の協力については運営推進会議で話題に出たことがある。</p>		<p>・運営推進会議を通して、地域住民との連携訓練を重ねておくことも必要と思われる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・毎日の食事量、栄養バランス、飲水量をチェック表に記録し、管理者や主任に報告している。医師などから指示が出ている利用者については、職員全員で特に配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・ホールには利用者が書いた日本画が飾られ、通路の壁や柱には、利用者が職員と一緒に製作した季節の飾り付けがなされている。リビングには、草花や利用者の作品などが置かれ、和やかな雰囲気になり心配りされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・職員は利用者の居室は利用者の自宅であるという配慮をしている。居室の家具なども利用者が使い慣れたものを持ち込み、部屋の飾りつけも利用者の個性を大切にしている。</p>		

 は、重点項目。